

増補 大國隆正全集（全八巻）

おおくにたかまさ



第一巻～第七巻 野村傳四郎編
第八巻・補遺 皇學館大學助教授
松浦光修 編

宣長・篤胤の学統をつぐ、
幕末国学界、最大の巨人、
大国隆正の決定版全集、
待望の増補復刻なる！
今回、既往全集未収録の
隆正著述・伝記資料等を
「補遺」として新たに追加！

研究者・図書館必備の基本図書 「第八巻・補遺」を新たに編纂し、内容さらに充実!!



国学五大人像（福羽美静・本全集第四巻一四三頁）

ISBN4-336-04328-0

平成13年8月末刊行予定！少部数限定出版！

体裁

A5判・上製・クロス装・セット函入・総頁数三五〇〇頁

定価

全8巻・揃定価：本体八八、〇〇〇円+税（分売不可）

本書の特色

★現在まで、唯一の大國隆正の「全集」である『大國隆正全集』（有光社・昭和十二年～十四年・全七巻）を復刻し、今回新たに皇學館大學助教授・松浦光修氏による「補遺」一巻を増補しました。

★神道史、日本思想史、日本宗教史、幕末維新史、国文学史、国語学史などの研究者や研究所、大学図書館、全国公共図書館などには必携の図書。また、神道関係者には特に推薦いたします。

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
電話 03-5970-7421 ファックス 03-5970-7427
E-mail:info@kokusho.co.jp
<http://www.kokusho.co.jp>

国書刊行会

注文書 貴店名	部数	様 セット	国書刊行会	御住所 Tel
			増補 大國隆正全集（全8巻） 野村傳四郎・松浦光修編 ISBN4-336-04328-0 揃定価：本体八八〇〇〇円（分売不可）	〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 電話 03-5970-7421 ファックス 03-5970-7427 E-mail:info@kokusho.co.jp http://www.kokusho.co.jp

国際化に「応戦」した幕末国学者の巨人、大国隆正

皇學館大學助教授・補遺監修者 松浦 光修



大国隆正は、幕末維新期における国学者の巨人である。その思想は、平田篤胤没後の国学界では、もっとも強烈な光芒を放つて思想史上に輝いている。神代巻には普遍的な真理が秘められているとする「神典窮理」の神道思想、皇紀を唱えた「神武中興紀元」の歴史思想、また、「大攘夷」や「天皇總帝論」などスケールの大きな政治思想など、その思索の成果は、きわめて多彩でしかも独創的である。そこには善くも悪くも、宣長的でもなければ篤胤的でもない、独自の思想世界が広がっているといつてよい。

もとより隆正は、歌文を弄んだり、文献考証に没頭したりすることのみに自足できるタイプの国学者ではなかつた。それは隆正が、当時の国際情勢に、ひときわ敏感であつたせいかもしれない。隆正にとって、着々と進行しつつあった欧米列強の世界支配は、単に政治的な意味での日本への「挑戦」といはばかりではなく、思想的な意味においても、日本への明確な「挑戦」であった。隆正は、その思想的な「挑戦」に対して、近世国学を大胆に革新することによって「応戦」しようとしたのである。

過去に終わつた昔話ではない。ある意味で隆正が直面した課題は、きわめて「現代的」な色彩をもおびているのである。「国際化」が進めば進むほど、逆に今、多くの人々は「日本とは何か?」、日本人とは何か?」と、考えはじめている。そのような問いをいたく人々には、ぜひ一度、隆正の著述にふれていただきたいと思う。

そこには、きっと何らかの意味ある発見が待つていいよう。もともと從来、隆正の著述をまとめて読もうとしても、それはなかなか容易なことではなかつた。昭和十二年から十四年にかけて有光社から刊行された野村傳四郎氏編の『大国隆正全集』全七巻が、現在までのところ唯一の「全集」であるが、それも一度刊行されたきりで、すでに古書店に並ぶことも稀となっているからである。

そこで、このたび国書刊行会から『増補・大国隆正全集』全八巻を刊行することとした。これは、かつての『大国隆正全集』を復刊し、そこに新たに「補遺」一巻を加えたものである。「補遺」には、これまでの全集に未収録であった諸著述、伝記資料などを新たに収める予定である。これによつて、隆正研究の唯一の基本史料集であつた『大国隆正全集』は、より一層充実したかたちで、多くの読者の手に届くものとなろう。学界のためにも国家社会のためにも、欣快にたえないう次第である。

本書をもとに、幕末・維新史、日本宗教史、国文学史、國語学史、神道史など、さまざまなもの

側面からの隆正の研究が進展し、その学問思想の実相が、さらに解明されることを願つてやまない。そして、そのことが、混迷をきわめる我が国の思想状況を正常化する一助ともなれば、平成十三年をもつて没後百三十年を迎える隆正も、「死にても死なぬ世」にあつて、きっと喜んでくれるのではないかろうか。

『大国隆正全集』出版をよろこぶ

推薦のことば

筑波大学名誉教授 芳賀 登

幕末国学の代表者である大国隆正の全集は、昭和十四年以来、長く再版されることなく、いたずらに落陽の紙価を高からしめている。大国隆正は、津和野本学の流れを汲む幕末国学運動の中心人物であり、とくに「万國公法」を意識して、外国へ対応できる国学の論理的指導者を志した人であった。それだけに、その研究は重要である。

今回、戦前の有光社版の復刻に加え、補遺史料をも収録するという。これを契機として、各地で発見されるものも多からうし、さらに加えるべきものも多からうが、少なくとも今日の時点では、有益な出版と考える。

とくに編者の松浦光修氏は、この学問を、専門に志す少壯有為の学者であり、多くの新鮮な分析・考証をかさねる篤学の徒である。斯界の人々の協力を広くうけつゝ、よい全集が編まれるものと思われる。

戦後、本居宣長はじめ、多くの国学者の全集が出版されたが、何故か、幕末変革期の指導者・大国隆正のものは遅れていた。幕末維新时期は、「皇國土崩」の危機の時代でもあつたが、かかる時代への処方箋を具体的につくつた人、それが隆正である。

観念的イデオロギーにとどまつたり、文学論にとどまるところなく、世を替えるための具体策を講じ、世界や国内の情報も、よく集めている。その上、「国際法」の知識にもくわしい。さらに公議世論を大事にする民主的輿論の上にも立脚しており、今こそ学び直す、いい機会と考へる。それ故、本全集の刊行を心からよろこぶのである。

『大国隆正全集』増補復刻への期待

皇學館大學學長 大庭 健

脩

私の曾祖母は江戸末の生まれで、私は江戸時代人である彼女と言葉をかわしたことがあるが、おそらく今的研究者は、江戸時代人の生きている姿を見たことがあるまい。それが、全く歴史としての江戸を研究対象にすることになり、近年の江戸研究は過去に例を見ない程に盛んで、そのアプローチも、文化人類学、女性史、国際関係史など新しい切り口で、従来にない角度から問題を照射している。

その一方で、府県市史の資料篇で多くの近世文書が紹介され、大日本近世史料がいろいろ刊行されているのを待つて。江戸時代は、なお、史料を活字にして学界共通の財産にする地味な作業が期待される、その意味では未解状態を残している分野もある。

『大国隆正全集』が増補復刻されるのも、その一つとして待望されるところである。(江戸時代漢籍輸入の研究)

第一卷

本學舉要(上・下)、馭戎問答(上・下)、文武虛実論(卷一・六)

第二卷

真詰新釋(卷一・二)、直毘靈補註(上・中・下)、憐駁者(上・下)、鼻くらべのさうし、三道三欲昇降圖說、神道道するべ、尊皇攘夷異説辨、尊皇攘夷神策論

第五卷

本教神理説(一・二)、本教神理説(別本)、神理一貫書(一・五)、神道受用考證(一)、教一致辯、魂魄辯、通略延約辯、神理入門用語訣(上・下)、天地神人名義考(上・下)、候錄(卷一)、天地神人名義考(上・下)

第六卷

古傳通解(八・九)、天都詔詞大詔詞考(一)、古傳通解(一・七)

第七卷

古傳通解(八・九)、天都詔詞大詔詞考(一)、三五後樂(三)、眞爾園翁歌集(一)、八、遺墨選解説

第八卷・新編補遺(松浦光修編)

I・著述 矮屋一家言、しほのさわぎ、文

武虚実論提要、神理小言、球上一覽、金坑弁、存念書、極意存念書、建言

II・祝詞・物語 鹿鳴・香取両宮祝詞、な

はなひものがたり、おきなといふをのことば

III・書簡 天保十四年九月二日付平田篤胤宛書簡、安政五年四月十六日付平田鍊胤宛書簡

IV・伝記資料 維新前後津和野藩士奉公事跡(上)、大国隆正五十年祭の記

解説

大国隆正文獻目録

大国隆正略年譜

『金葉集』春 後冷泉院の御時云々、庭をりてまゐれと仰ぐとありければ云々。

かの幼子のとらんとして、「あ」「あ」

『げんじ』うつせみ 戸をおしゃくるしらんとして、「あ」「あ」といふにお

『宇治拾遺』一 「こはいかに、ここぞ

こ「あ」しこ とて開山もこえぬ。

ゆかんとして、「あ」「あ」といふに、

「い」

収録内容